

東日本大震災被災県中学校の取組

福島県相馬市立中村第一中学校

1・本校の概況（震災時および現在の様子）

本校は、相馬中村城趾の北西約1 km、海岸から約8 km離れた海拔25 mの小高い丘に位置している。築37年の校舎ではあるが東日本大震災の1年前に耐震工事が完了していたため、地震の被害はほとんどなかった。また、福島第一原子力発電所から北へ45 kmに位置しているが、事故当時、放射性物質は北西に流れたため本校周辺の放射能汚染は軽微であった。

震災直後の平成23年3月16日より本校体育館が避難所として開設され、同年6月12日まで最大100名の避難者の支援を行った。同年4月18日より相馬市内の小中学校が再開され、音楽ホールで始業式と入学式を行った。4月25日より給食を再開し、今日までおおむね通常の教育活動を行うことができるようになってきている。

校庭の表土剥離対策を行ったこともあり、現在は0.1 μ Sv/h程度の空間放射線量である。給食の放射線量も毎回測定しており、ND（検出限界値10 Bq/Kg）の給食を提供している。生徒の健康管理として、ガラスバッチ、ホールボディカウンター、甲状腺検査を毎年実施しているが、今まで生徒の異常は見られない。しかしながら、放射線に対する不安や風評被害を払拭できないことが、大きな課題となっている。

また、大震災以降、相馬・双葉地区の児童生徒が減少している中、本校では、原発避難区域からの区域外通学や津波被災地区からの住居新築に伴う転入が増えてきている。

2. 学校の写真



グラウンドからの校舎風景



正門からの校舎風景



H23.4.18

音楽ホールで行われた入学式



校地内に設置されている
モニタリングポスト

3. 特色ある取組

東日本大震災により、458 名のかげがえのない命や大切な財産が失われ甚大な被害を被った相馬市では、震災直後より、未来を担う子どもたちに大震災の教訓を引き継ぎ、ふるさと相馬の復興について市内 15 校の小学校 6 年生と中学校 1 年生が一同に会して考える「ふるさと相馬子ども復興会議」を開催している。平成 26 年度から各学校毎に総合的な学習の時間を使って防災について学習し、その成果を発表している。

本校では、平成 27 年度は、「避難と救助」をテーマに下記のような防災学習を行い発表した。

1 「避難」の取り組み

- ・自宅から指定避難所までの避難訓練、避難所周辺の危険箇所の調査・ハザードマップの作成

本校では、年 3 回校内での火災、地震に対する避難訓練を行っているが、登下校中や自宅にいる時に発生したと想定し、自宅に一番近い緊急避難所へ保護者と一緒に避難する訓練を行った。合わせて避難所周辺の危険箇所を調査して、後日ハザードマップを作成し、校内発表会を通して全員で共有化を図った。

2 「救助」の取り組み

- ・心肺蘇生法及び AED（自動体外式除細動器）操作の学習

救助の際は、勇気を持って声をかけ、手をさしのべることの大切さや他の人の協力を求める必要性を知ることができた。

4. 取組の様子



指定避難所までの避難訓練



危険箇所の調査



作成されたハザードマップ



心肺蘇生法の学習